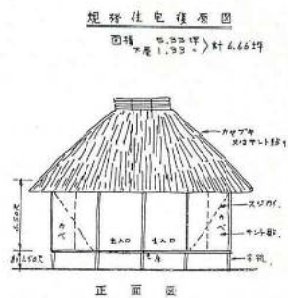


昭和20年 (1945)



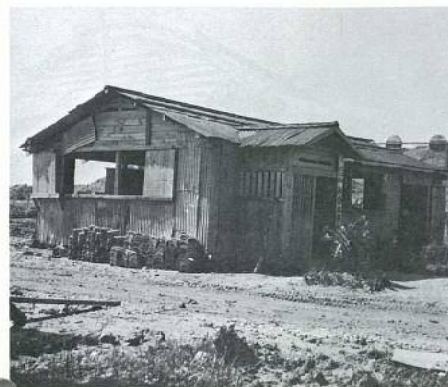
一般社会経済

- 沖縄戦終る。(1945.6.23)
約100万戸の住家と公共建築物の大半が灰塵に帰す。
- ポツダム宣言(1945.8.15)一終戦一
- 諮詢委員会発足(1945.8.20 石川市)
委員 長 志喜屋 孝 信
幹 事 松 岡 政 保
総 務 部 長 又 吉 康 和
法 務 部 長 前 上 門 昇
教 育 部 長 山 城 篤 男
文 化 部 長 当 山 正 堅
公 衆 衛 生 部 長 大 直 味 朝 計

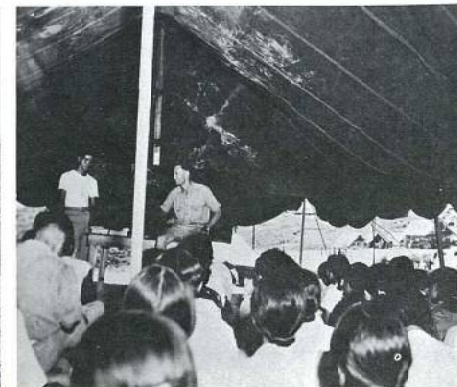
建築関係

- 諮詢委員会に工務部設置さる。(1945.3.29)
部長には松岡政保幹事兼任
- 工務部建築課発足(初代課長 前田朝信)
建築課出張所の設け(知念、糸満、石川、首里、前原、名護、コザ、金武、金城)
- 陶器、瓦工業の復興のため、壺屋、牧志に136人の男子先遣隊が移動
- 規格住宅の設計なる。
設計 仲座久雄
構造 トウバイハウ(2×4)組立式茅葺
面積 6坪(19.8㎡)

昭和21年 (1946)

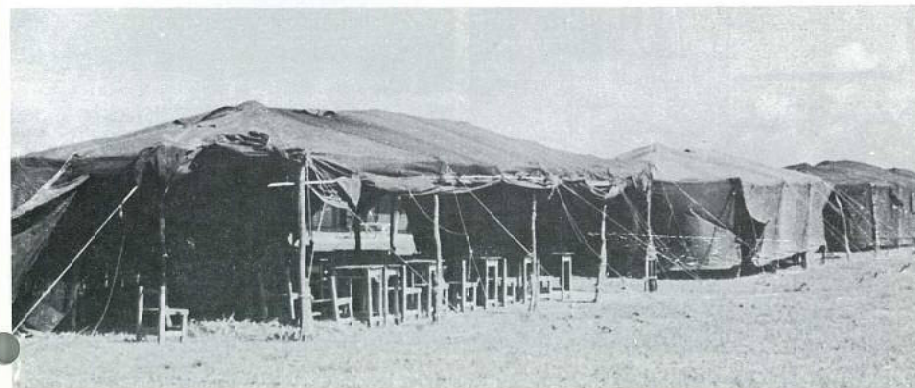


▲建築課構作隊知念出張所



▲同内観

▼テント教室外観



一般社会経済

- 行政分離(1946.1.28)
北緯30度以南の南西諸島と日本政府分離
- 沖縄における中央執行機関設置について軍政府より諮詢委員会に指示あり。
- 沖縄民政府創立(1946.4.24 石川市東恩納)
知事 志喜屋孝信
- 通貨交換 旧日本円→B円(1945.4.15~4.28)
交換総額 全額 173,485,769円(沖縄 62,389,115円)
- 住民の元居住地への移動が可される。(1946.4)
- 農村復興計画予算(15,000,000 B円)許可
- 沖縄中央銀行創立(後の琉球銀行 1946.5.1)
- 第2回通貨交換(沖縄本島のみ 1946.8.15)
B円票→日本新円
- 日本本土より引揚第1輸入。(1946.8.17)
- 本土との通信開始(1946.9.10)
- 沖縄民政府知念へ移動(現佐敷町 1946.10.17)

建築関係

- 沖縄民政府に工務部構作隊本部(安謝)を設置し、第1構作隊(安謝)、第2構作隊(壺屋)、第3構作隊(安謝)、第4構作隊(首里)が組織され、又安謝、勝連、金武湾(具志川)、金武に建築資材集積所を設置し、規格住宅や校舎役場、保健所、駐在所等が優先的に建設される。
- 具志川村田場に文政学校開校(1946.1.10)
- 具志川村田場に警察学校設置(1946.2.1)
- コザ中央病院(コンセット造り)

昭和22年 (1947)



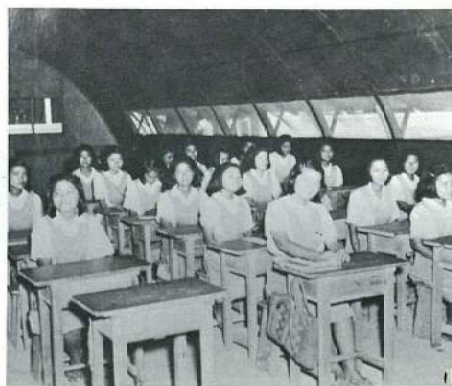
▲ 葦茅校舎外観



▲ コンセット校舎外観



▲ 内観



▲ 内観

一般社会経済

- 税制の実施 (1947.4.1)
- 沖縄工業協会創立 (1947.4.15)
- 公営バス創立 (1947.8.16)

建築関係

- 規格住宅の各市町村への供給
- 天幕や茅葺校舎の建設はじまる。
- 愛楽園規格病舎30C棟完了 (茅葺)
- 壺屋町牧志において赤瓦の製造開始

昭和23年 (1948)



▼ 旧天妃小学校 ▲ 上山国民学校 ▶ 司復旧前後



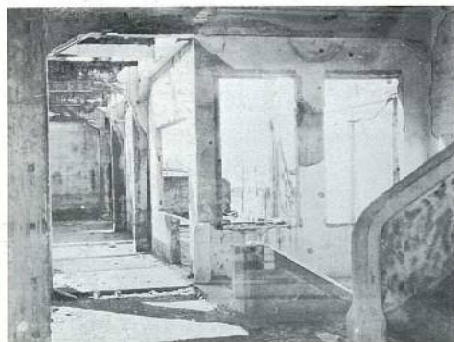
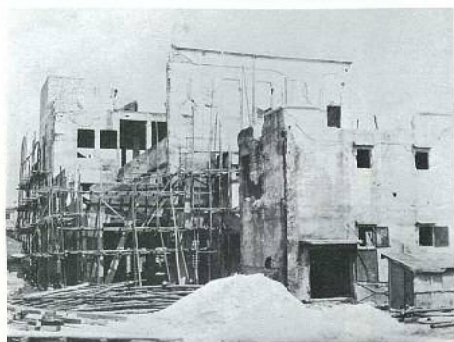
一般社会経済

- 新選挙法により市町村長選挙 (1948.2.1)
- 琉球銀行創立 (沖縄中央銀行閉鎖 1948.5.1)
- 第3回通貨交換実施 (1948.7.16~7.20)
日本新円→B円軍票
交換総額 360,000,000円
- 自由企業制度の実施 (1948.11.1)

建築関係

- 戦災復旧工事
 - 旧那覇警察署 (RC 2F, 赤瓦葺)
 - 旧勸業銀行那覇支店 (RC, 2F) → 琉球銀行
 - 旧第147銀行那覇支店 (RC, 2F) → 琉球銀行
 - 旧上之山国民学校 (RC, 2F) → 米国民政府
 - 旧天妃小学校 (RC, 2F) → 沖縄民政府 → 那覇市役所
 - 旧泊国民学校等各小学校
- 米国民政府特別布告第32号「企業の登録並びに免許に関する事項」
公布→土木建築業の認可 (1948.10.26)
- 奥田幸一氏設計事務所開設 (戦後第1号) → 佐敷村字新里

昭和24年 (1949)



▲旧丸山号復旧工事

一般社会経済

- 沖縄軍政官庁新設 (1949.4.11)
- 沖縄民政府郡都市へ移転 (1949.12.1)
- 教育長制実施 (1949.12.9)
- 沖縄民政府機構改定 (1局9部 1949.12.28)
- 日本政府沖縄への旅券発行開始

建築関係

- 建築課専作隊廃止 (規格住宅73,600戸完了)
- 復旧工事
 - 旧那覇電話局 (RC. 2F) →米国民政府
 - 旧丸山号百貨店 (RC. 3F) →米国軍政府→琉球政府立法院
 - 旧大典寺少年保護院 (RC. 2F) →工務部
- 沖縄土木建築請負組合創立
- 各地に木造赤瓦葺公共建築及び校舎建築開始

昭和25年 (1950)



▲琉大本館▼

▼玉城小学校



一般社会経済

- 南部地区オフリミット解除 (1950.1.14)
- 公営バス解消→民間バス会社創立 (1950.3.31)
- タクシー会社発足 (1950.4)
- 琉球放送局放送開始
- 沖縄商工会議所設立
- 軍政府通貨レートB軍票120円対1ドルとする。(1950.4.12)
- 復興金融基金業務開始 (1950.6.10)
- 沖縄群島政府創立 (1950.11.4)
- 琉球軍政府を米国琉球民政府に改称 (1950.12.15)
- 朝鮮動乱勃発 (1950.6) →米軍基地建設の隆盛→本土業者の沖縄進出

建築関係

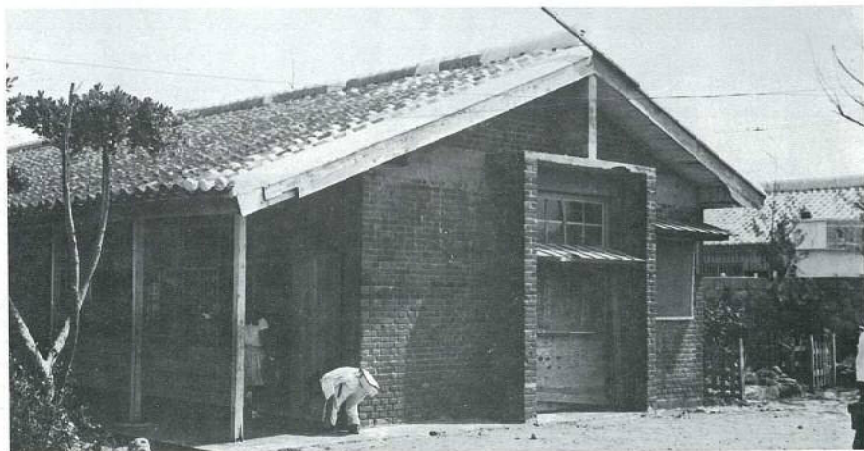
- 工務交通部大興寺に移転 (1950.1.4)
- 米軍施設に空洞コンクリートブロックが採用され、民間でも製造が始まる。(宮城董2月)
- 初の国際入札実施 (1950.4.8)
- 建築基準法、同土法公布 (1950.5.24)
- 戦災復旧工事 旧糸満国民学校舎他30棟
- 琉球大学本館 (栗石造赤瓦葺2階建、100坪)及び校舎(木造平屋赤瓦葺35坪5棟、37坪3棟)、図書館(木造平屋赤瓦葺78坪)、便所施設、その他→園場組 (1950.5)
- 玉城国民学校 (石造2F RCスラブ)
- 各地に郵便局(木造赤瓦葺)庁舎建設
- 沖縄住宅公社調印 (1950.5.17)

昭和26年 (1951)



◀ 石造校舎

▼ 煉瓦校舎



一般社会経済

- 琉球大学開学式典 (1951.2.2)
- 琉球臨時中央政府開庁式 (1951.4.1)
- 沖縄本島における土地所有権証明書交付開始 (1951.4.6)
- 協同組合法公布 (1951.5.24)
- 琉球商工会議所発足 (1951.6.20)
- 軍票対ドル交換実施さる (1951.6.20~)
- 米軍人の住居地域への立入禁止の解除 (1951.9.14)
- 奄美群島の日本領土復帰 (1951.11.24)
- 米国の琉球に対するガリオア援助資金予算
1952年度 10,761,783 ドル (1951.12.27)

建築関係

- 那覇、コザ、名護保健所建設
- 那覇、石川、名護、八重山文化会館建設
- 壁体石造 (現地産調達)、板瓦造、コンクリートブロック造赤瓦葺校舎沖縄全域にかけて112棟建設
- ※戦後民間初のRC造3階建ビル建設 (設計ライト工務店) 支持杭に松丸太打込み

昭和27年 (1952)



◀ 沖縄会館

▼ 那覇港ターミナル



一般社会経済

- 日本政府琉球向杉輸出を解禁する (1952.1.31)
- 琉球政府発足 (1952.4.8)
初代行政主席 比嘉 秀平
- 軍政府日の丸掲揚を許可する (1952.4.9)
- 米国政府対日平和条約発効 (1952.4.28)
- 日本政府総理府に南方連絡事務所開設 (7.1)
- 日本政府那覇に南方連絡事務所設置 (8.13)
- 軍予算による1号線 (現国道58号線) 施工発表
全長 60 km、工費 82,000,000 B円
- 1953年度ガリオア援助資金 911 万ドル

建築関係

- 工事執行法 (立法第46号) 制定→公共工事の入札実施 (1952.10.13)
- 沖縄群島建築基準法令を建築基準法 (立法第65号) として公布 (1952.12.15)
- 旧勸業銀行支店社宅2棟復旧工事 (RC造) →南方連絡事務所
- 琉球大学特別教室 (1952.9.2) ⑧ 980万B円、⑨ 426.5坪 RC造
- 沖縄中央病院
- 八重山保健所
- 沖縄会館 (施工 国場組 1952.6)
- 少年刑務所
- 那覇港ターミナルビル (施工—金城カンパニー)

昭和28年 (1953)



◀ 中央郵便局



琉球気象台▶

一般社会経済

- 琉球政府主席の選挙法公布 (立法第3号 1.19)
- ガリオア援助資金総額 (1947～1953年度計)
192,458,000ドル
- 校舎復旧費総額 (1947～1953.1.30) 528,447,700 B円
- 奄美大島本土復帰 (1953.12.25)
- ※米国民政府令第117号による建築制限
舗装道路 (歩車道の区分なし) の端部から、四車線の場合7.5M、二車線の場合6Mのうち道路側3Mを駐車スペースとし残りを歩行スペースとするため建築が禁止され、建築基準法と併用された。

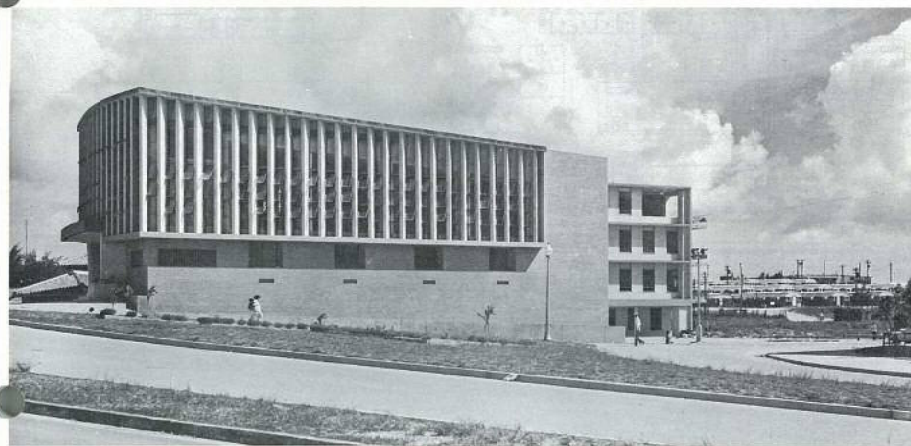
建築関係

- 建築士法制定 (立法第87号)
- 工務局を工務交通局に、計画技術課を建築課に改称 (1953.3.5)
- 立法院ビル設計競技実施
- 行政府ビル竣工 (1953.4)
設計—松田平田設計事務所、施工—国場組
構造—R・C造地上4階地下1階、総工費100万ドル以上
- 崇元寺石門修復 (1953.5)
- ペルリ記念会館竣工 (1953.5)
- 那覇中央郵便局竣工 (1953.11) →工務交通局
◎国場組 ◎ 34,950,000 B円 ◎ RC造 1,731 坪
- 沖縄赤十字病院竣工 (1953.11) 施工—善太郎組
- 琉球気象台庁舎 (1953.12.1) ◎ 2,138,000 B円 ◎ RC造 129.5 坪
- 首里博物館
- 警察学校舎 ◎ 4,035,982 B円 ◎ RC造 290 坪
- 愛楽園病院、社身寮 ◎ 3,920,000 B円 ◎ RC造 332 坪
- ※琉球新報社社屋竣工 (1953.11) 施工—国場組

昭和29年 (1954)



◀ 立法院ビル



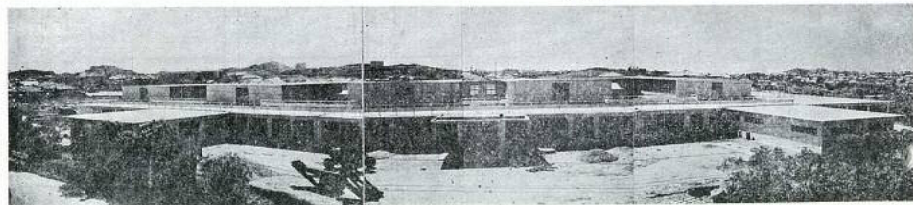
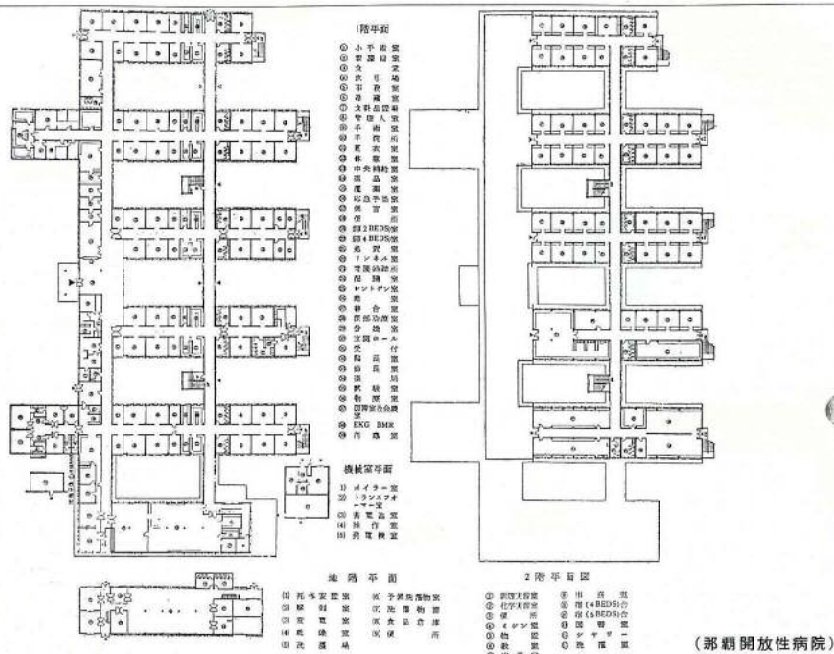
一般社会経済

- 米国議会で1955年度対琉ガリオア援助資金3,100,000ドルを承認 (1954.7.13)
- 大衆金融公団法公布 (1954.9.8)
- 銀行法公布 (1954.10.29)
- 那覇一名護間1号線舗装工事完成 (1954.7)
- 那覇市国際通り舗装工事完成 (1954.12.5)
施工—国場組、総工費—30,156,000 B円

建築関係

- 建築基準法、建築士法の公布 (1954.11)
一級建築士48名、二級建築士138名を逆考
- 立法院ビル竣工 (1953.8.3～1954.7.26) ◎大城龍太郎、◎大政組、◎ 22,150,000 B円、◎ RC造 692 坪
- 子供博物館竣工 (1954.8)
設計—仲座久雄、施工—金城カンパニー
- 南部税務署 (1945.3.5～9.25)
施工—金城カンパニー、工事費—5,491,415 B円、概要—RC造 290.75坪及び倉庫76坪
- 那覇園病棟及び園長官舎—RC造 228坪、施工—金城組、工事費—3,141,000 B円
- 琉球大学男子寮 (1953.9.28～1954.2.16)
施工—大政組、工事費—7,630,000 B円、施工監理費—100,000 B円、◎ RC造 507坪
- 主幹公舎竣工 (1954.6～1954.12)
- 金武精神病院 ◎ 4,310,000 B円、◎ RC造 286.5坪
- 中編教職員会館

昭和30年 (1955)



一般社会経済

- 琉球政府統計一総人口 736,000人 (1955. 4. 4)
- 1956年度琉球政府予算 1,963,520,000 B円、民政府より承認 (1955. 5. 25)
- 牧港発電施設及び送電施設を軍から琉球電力社に移管 (1955. 8. 19)
- 建設業法 (立法第 23号) 公布 (1955. 7. 8)
- 琉球土木建築請負業協会は琉球建設業協会と改称 (1955. 10)
- 鉄鋼材 1,528トンの輸入を日本政府承認 (1955. 12. 9)
- ※由美子ちゃん事件発生 (1955. 9. 3)

建築関係

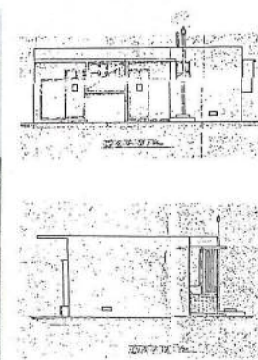
- 沖縄建築設計監理協会創立 (1955. 7. 17)
- 沖縄建築士会創立 (1955. 12. 17)
- <主要工事>
- 那覇開放性病院第 1 期工事 (1955. 2 ~ 1955. 12) ① 基本設計—

- 米国公衆衛生局、②実施設計—建築課、③敷地面積 5,000 余坪、④ R C 造 2 階 664.1 坪、⑤施工本館—小波津組、附属棟—金城組、電気—琉電社、衛生—椰和商会、整地—平城工務店
- ※建設業協会ビル (1955.) ⑥大城龍太郎、⑦大政組、⑧ R C 造 3 階
- ※グランドオリオン座 (1955.) ⑨ライト工務店、⑩田嘉里組
- ⑪ R C 造
- ※国映館 (1955. 10) ⑫国場組、⑬ 234,000,000 B円
- 牧志郵便局 (1955. 10. 28) ⑭建築課、⑮伊礼組、⑯ R C 造 2 階 55.7 坪
- 美栄橋郵便局 (1955. 6. 10) ⑰日新工務店、⑱高江組、⑲ R C 造 2 階 75.37 坪
- ※琉球放送首里スタジオ (1955.) ⑳仲盛久雄、㉑大政組、㉒ R C 造 2 階
- ※那覇航空隊大格納庫 (1955. 10) ㉓国場組、㉔ 90 M スパン
- 琉球大学志喜屋図書館 (1955. 12) ㉕仲盛久雄、㉖国場組、㉗ R C 造 5 階

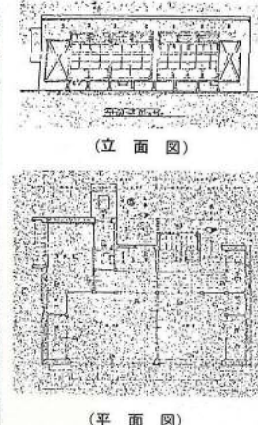
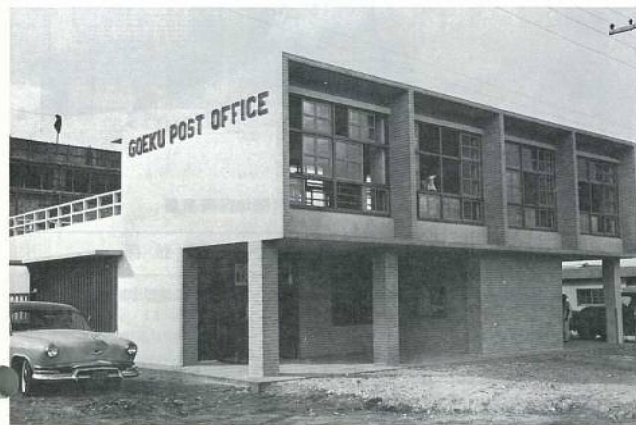
昭和31年 (1956)



▼コザ (越來) 郵便局



▲若狭住宅▶



一般社会経済

- 那覇都市計画区域の決定 (1956. 2. 20)
- 台風エマによる被害 (警察保安課発表) 9. 8
- 建物倒壊 8,653 棟、船舶被害 27 隻、道路流失 839 m、堤防流出 3,482 m、農作物被害 55 畝
- 1956年度住民所得推計 (琉球政府経済企画室)
- 総計 15,051,240,000 (B円)
- 1人当り所得 18,813 (B円)

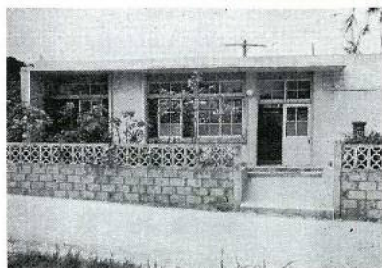
建築関係

- <主要工事>
- 園比屋武御嶽石門復元 (1956. 6) ① 150 万 B円、②文化財保護委員会
- 那覇市宮住宅竣工 (若狭平屋 24 戸、3 階 96 戸) — (1956. 12)
- 山形屋アパート竣工、③仲地組、④太陽工務店
- 司法ビル (1956. 5. 18) ⑤仲盛久雄、大城龍太郎、八幸土建、ライト工務店—建築課共同、⑥国場組、⑦ R C 造 3 階
- ※琉球生命ビル (1956.) ⑧入幸土建、⑨国場組、⑩ R C 造 5 階
- ※沖縄製粉会社 (1956.) ⑪ライト工務店、⑫国場組、大城組、小波津組、⑬ R C 造 5 階
- ※仲盛久雄建築事務所 (1956.) ⑭仲盛久雄

昭和32年 (1957)



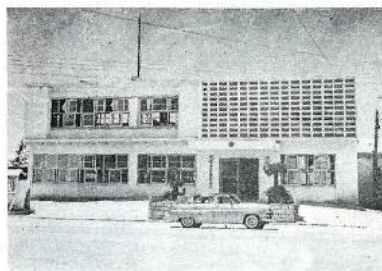
◀ 八重山郵便局



▲ 知念郵便局



▲ 名護郵便局



▲ 普天間地区警察署

一般社会経済

- 極東軍指令部より台風復旧援助費 127 万ドルの追加割当米国議会議承認 (1957. 1. 1)
- 琉球高等弁務官制度の実施 (アイゼンハワー大統領) → 主席の任命制 (1957. 6. 5)
- 琉球政府立公園法公布 (1957. 8. 30)
- 民政府エム台風住宅復興資金として 200 万ドル (240,000,000 B円) の支出発表 (1957. 8. 3)
- 台風フェイ瞬間最大風速 61.4 M を記録 (1957. 9. 25)
- 全琉の軍用地面積 42,700 エーカー (52,266,355 坪) (1957. 10. 28) → 軍用地連合会
- 1957 年度住民所得総額 16,632 百万 B円
1 人当所得 20,033 B円
- 沖縄～宮古、宮古～八重山無線電話開通 (1957. 12. 28)
- 山田真山画伯「平和観音像」制作着手 (1957. 5)
- ※ 戦後はじめて建築行政指導のため建設省技官 (前川喜寛) 来沖

建築関係

- 守礼門復元工事指導のため日本文化財保護委員調査官森政三来島 (1957. 7)
- < 主要工事 >
- 知念郵便局 (1957. 1) 建築課、外間組、RC造平屋 24 坪
- 名護郵便局 (1957.) 日新工務店、比嘉組、RC造 2 階 84 坪
- 八重山中央郵便局 (1957. 12) ライト工務店、八重山興発 RC造 2 階 200 坪
- 金武精神病院 (1957.) 建築課、松岡建設、大丸建設、RC造平屋 151.9 坪
- 普天間地区警察署 (1957.) 建築課、読谷共進、RC造 2 階 138.4 坪
- 嘉手納地区警察署 (1957.) 建築課、石川良徳、RC造 2 階 133.15 坪
- 宮古水産高校 (1957. 8. 2)
- 宮古多良間村水納島灯台 (1957. 10. 28)
- ※ 沖繩タイムス社屋 (1957. 7) 宮平建築設計事務所、国場組、RC造 3 階
- ※ 沖映館 (1957. 12) 宮平建築設計事務所、前田組、RC造
- ※ 大越百貨店 (1957.) ライト工務店、大城組、RC造 3 階
- ※ 第 1 相互銀行 (1957.) 大城龍太郎、国場組、RC造 3 階
- ※ 岸本ビル (1932.) 仲地組、RC造 4 階

昭和33年 (1958)



▲ 北部土木事務所

◀ 第 2 行政ビル



▲ 守礼門



▲ 名護郵便局 ▶

一般社会経済

- 通貨交換 (120 B円=1 ドル) 実施 (1958. 9. 16 ~ 9. 20)、交換高 16 億 7 百万円 (13,398,489 ドル)
- 琉球水道公社設立 (1958. 9. 4)
- 米国より追加補助金として、(1) 琉大女子寮建設費 (19 万ドル)、(2) 警察庁事務所建設費 (17 万ドル)、(3) 結核管理費 (16 万 5 千ドル)、交付 (1958. 11. 6)
- 当年より一級建築士及び建築主事試験を建設省が実施することになる。
- 当年より二級建築士試験は九州ブロックの客員扱いとして同一問題で実施することになる。

- 琉球衛生研究所 (1958. 5) 建築課、小波津組、RC造 3 階 320.7 坪
- 金武保健院事務所 (1958.) 大城龍太郎、善太郎組、RC造平屋 117 坪
- 宮古療養所 (1958.) 建築課、宮古建設、1900 万 B円、RC造 900 坪
- 八重山結核療養所 (1958.) 建築課、武田工務店、13,100,000 B円、RC造
- 佐敷郵便局 (1958. 4) 建築課、与那福正孝、RC造 2 階 21.8 坪
- 具志頭郵便局 (1958.) 具志堅工務店、浜田組、RC造 2 階 25.3 坪
- 与那原郵便局 (1958. 5) 建築課、照屋組、RC造平屋 26.7 坪
- 宮古中央郵便局 (1958. 6) 日新工務店、上地組、RC造 2 階 168.08 坪
- 糸満郵便局 (1958. 11) 具志堅工務店、福工建設、RC造 2 階 50.22 坪
- 玉城郵便局 (1958.) 仲坐久雄、高良組、RC造平屋 28 坪
石川市消防署 (1958.) 建築課、松三組、RC造 2 階 26.7 坪
- 守礼の門復元 (1958. 8. 1 ~ 1958. 10. 15) 守礼門復元期成会
大工→知念朝宗、絵彫刻→金武朝健、石工→山城正顕、屋根→島按仁和、額→長嶺但貴 (指導) 森政三 23,514 \$ 20c
※ 謙島霊園納骨堂 (1958. 3. 1) 仲坐久雄
※ 泊港ターミナルビル (1958.) 那覇市、善太郎組
※ 与那原教会 (1958. 7.) RC造平屋 (一部 2 階)

建築関係

- < 主要工事 >
- 第 2 行政ビル (1958. 9) 建築課、国場組、41,764,218 B円、RC造 3 階 1,643.8 坪
- 那覇登記所 (1958.) 許田工務店、小波津組、RC造 3 階 246.02 坪
- 国頭裁判所 (1958.) 具志堅工務店、仲地組、RC造 2 階 145 坪
- 北部工務出張所 (1958.) ライト工務店、上原組、RC造 2 階 56 坪

昭和34年 (1959)



▲那覇空港ターミナル



▲那覇空港ターミナル正面玄関



▲同上夜景



▲同上内部

一般社会経済

- 石川市宮森小学校に米軍ジェット機墜落 死者17人、負傷121人 (1959.6.30)
- 台風サラ宮古島において瞬間最大風速64.8mを記録、死者6人、負傷75人、家屋全壊、4,889棟半壊3,225棟、農作物等被害総計660万ドル、宮古島台風と命名
- 自由貿易地域ガリオア倉庫2棟で発足 (1959.10.1)
- 台風シャーロット、沖縄本島で瞬間最大風速53.2m、雨量559.3ミリを記録、死者46名、負傷者25名を出す (1959.10.16~10.17)
- 布令第29号により「琉球復興基金」にかえて「琉球開発資金公社」発足 (1959.10.3) 總裁一瀬長 浩氏
- 沖縄建設新聞創刊 (1959.10)
- 沖縄テレビ開局 (1959.11.1)
- 琉球セメント(株)設立

建築関係

〈主要工事〉

- 琉球政府警察庁舎 (1957.7) ④ライト工務店 ⑤沖縄実業 ⑥138,719ドル ⑦R.C造3階671.5坪
- 琉球税関庁舎 (1959.8) ④建築課 ⑤前田組 ⑥52,410ドル ⑦R.C造3階222坪

- 那覇空港ターミナル (1959.5) ④宮平設計事務所 ⑤大城組 ⑥R.C造2階1,100坪
- 金武保養院 (1959.) ④建築課 ⑤沖縄工業、太田組、善太郎組 ⑥木造赤瓦葺、R.C造 397.75坪
- 糸満結核化学研究所 (1959.7) ④具志堅工務店 ⑤沖縄実業 ⑥71,500ドル ⑦木造瓦葺平屋565.76坪
- 八重山病院 (1959.) ④123,970ドル ⑤R.C造 745.5坪
- 宮古結核療養所 (1959.4) ④大城龍太郎 ⑤小波津組 ⑥134,416ドル ⑦R.C造平屋745.5坪
- 那覇商業高校体育館 (1959.7) ④建築課 ⑤松三組 ⑥R.C造S屋根344坪
- 琉大女子寮 (1959.) ④南洋土建 ⑤165,000ドル ⑥R.C造2,522㎡
- 大衆金融公庫ビル (1959.7) ④ライト工務店 ⑤大宜味組 ⑥R.C造2階145.3坪
- 那覇消防署ビル (1959.3) ④宮平設計事務所 ⑤大宜味組 ⑥R.C造2階者屋5階147.3坪
- ※沖縄配電ビル (1959.3.27) ④我那覇設計事務所 ⑤国場組 ⑥294,166ドル ⑦R.C造4階945坪
- ※オリオンビル (1959.5) ④ライト工務店 ⑤大城組、国場組 ⑥R.C造5階他1,645坪
- ※那覇バスターミナル (1959.6) ④太陽工務店 ⑤善太郎組 ⑥R.C造2階506.5坪
- ※琉球放送会館 (1959.6) ④宮平設計事務所 ⑤武田工務店 ⑥R.C造4階
- ※米陸軍病院 (1955.3~1959.7) ⑤国場組 ⑥480万ドル ⑦R.C造5階〈国際入札〉

昭和35年 (1960)



◀那覇商業高校体育館 (1959年)



奥武山野球場▶

一般社会経済

- 日本政府の沖縄関係予算102,600,300円 (1960.1.13)
- 米国の沖縄経済援助予算463万ドル (1960.1.19)
- 民政府西表島経済開発の調査明細発表、20年以内に5万人移住 (1960.1.20)
- 軍用地料10年前払い1,900万ドル、新年度米軍施設建設費888万9千ドル (1960.3.1)
- 沖縄県祖国復帰協議会結成 (1960.4.28)
- チリ地震による津波沖縄本島中北部に被害を与える。奥武島橋、屋敷地大橋損壊、真喜屋小学校使用不能となる (1960.5.24)

建築関係

- 奥武山野球場 ④那覇市 ⑤建築課 () ⑥前田組 ⑦R.C造
- 南連事務所庁舎 ④那覇市、⑤R.C造2階建
- 八重山総合病院 ④石垣市 ⑤建築課 ⑥R.C造
- 南大東高層気象観測所 ⑥R.C造469.22㎡ ⑦28,790ドル
- ※八汐荘(教職員会) ④宮里栄一 ⑤国場組 ⑥R.C造
- ※ラジオ沖縄 ④国場組、⑤R.C造2階建
- ※国場組ベニア工場 ④国場組 ⑤5,000,000ドル